

令和5年度盛岡市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、消費地近郊の恵まれた立地条件を生かし、水稻を中心とした、野菜、花き、果樹及び畜産などの多種多様な農畜産物の生産が行われ、農業産出額も県内の上位に位置している。

県庁所在都市として、充実した都市機能の集積と産業の発展によってもたらされている活力と調和したまちづくりが行われている一方、農地と住宅地が混在する地域が増加傾向にあり、年々農業をとりまく環境は厳しくなっている。

水田は、全耕地面積の約68パーセントあり、その内、主食用米面積の割合が約61パーセントで、転作作物に占める割合は小麦・大豆が高い。耕作地が点在していることや湿田が多いことから、団地化はあまり進展しておらず、また、農業者の高齢化による農家戸数の減少が進み、不作付地の拡大が進んでいる。

また、米の国内需要は一貫して減少傾向にあり、近年では減少幅が毎年十万トン程度に拡大している。特にここ数年は、新型コロナウイルスの影響による需要の減少と、米の供給過剰による価格下落が生じており、令和4年こそ中食や外食の支出金額が前年を上回るなど、米の需給状況の安定に向け、明るい兆しがあったが、引き続き麦、大豆、園芸作物等への転換を一層推進し、適正な主食用米の作付けを進める必要がある。

こうした中で、水田農業経営の安定と発展のためには、土地利用型作物の定着拡大や生産性向上を図るとともに、農作業受委託や農地中間管理機構の活用による水田利用集積を進め、水田の有効活用を促進していく必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

近年、主食用米の需要が減少する中で、水田農業の発展や農業者の所得向上を図るため、高収益作物の生産拡大と併せて、収益力強化に向けて産地として取り組んでいく必要がある。

高収益作物の導入や転作作物等の収益力強化にあたっては、小麦・大豆を中心とした土地利用型農業を推進し、団地化やブロックローテーションによる作業の効率化に取り組んでいく。

また、当該地域の特性に応じた地域振興作物を設定しながら重点的な生産振興により、個性ある産地づくりを推進し、地場流通や産地直売など多様な販売活動の促進、他産地との差別化による需要の安定確保を図っていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域においては、耕作地が点在していることや農業者の高齢化による担い手不足が課題として挙げられている。

農作業受委託や農地中間管理機構の活用による水田の利用集積に加え、産地交付金のメニューを活用し、担い手への農地の集積・集約を図る。併せて、排水対策の実施、省力化による生産性向上の取組を支援し、水田の有効活用を推進していく。

また、集落ごとに話し合いを進め、生産拡大に意欲的な担い手への水田の利用集積を推進し、集落における水田の利用状況や作付体系の明確化を図っていく。

加えて、水田の有効活用として、ブロックローテーションや、水田における湿害対策等の解消のため、畑地化の推進も検討していくとともに、水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田や、今後も水稻作に活用される見込みがない水田の所有者への畑地化の推奨を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

米が基幹である当該地域においては、消費者及び市場ニーズに対応できる良食味米の安定生産を進め「売れる米づくり」体制を構築し、播種前契約や複数年契約を通じて、販路の確保と農家の生産意欲の維持に繋げながら、需要に応じた米生産を推進する。

(2) 備蓄米

主食用米に代わる水田フル活用作物として米生産者の作付意向を勘案しつつ、有効的な取組を図る。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物の中心作物の1つに位置づけ取り組む。

また、産地交付金を活用した複数年契約の取組の支援や、耕種農家と畜産農家の連携の推進により、収益性の向上と生産の維持拡大を図る。

イ 米粉用米

結び付きのある製麺業者との契約に基づき、産地交付金を活用して、担い手への集積を図り、需要に応じた生産数量を確保するとともに、新たな実需者の確保を目指す。

ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米は、現時点での取組予定なし。

エ WCS 用稲

地域の畜産農家との契約に基づき、栽培面積を維持する。

また、産地交付金を活用し、耕種農家と畜産農家の連携の推進により生産の維持拡大を図る。

オ 加工用米

結び付きのある加工業者等との契約に基づき、需要に応じた生産数量を確保するとともに、新たな実需者の確保を目指すことで作付の推進を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

小麦・大豆は、産地交付金を活用し、担い手への利用集積・団地化を図るとともに、湿害を回避するための排水対策の実施、機械の導入による省力化・機械化体系の構築などの生産性向上の取組を支援する。加えて、生産性の高い優良品種への転換も視野に入れ、実需者ニーズに即応した高品質安定生産を進めることとする。

飼料作物は、産地交付金を活用し、担い手への集積と耕畜連携の取組を支援し、酪農、肉用牛生産とリンクする中山間地域を中心として、飼養規模の拡大や飼料自給率の向上に結びつくよう、作付の推進を図る。

(5) そば、なたね

そばは、産地交付金を活用しながら、排水・湿害対策の取組により増収と品質・生産性の向上を図り、地域の実需者との契約に基づき、契約数量を確保する。

また、二毛作の取組を推進し、土地生産性を高め、農家の収益力向上を図る。

なたねは、現時点での取組予定なし。

(6) 地力増進作物

地力増進作物は、麦、大豆の作付けにおいて、連作障害を回避し、収量の増加につながることから、地力増進作物を組み入れた地域の作付体系を促進することにより、水田作における収益性の向上を図る。

(7) 高収益作物

産地交付金を活用し、生産拡大を推進していく。

特に、「ねぎ」、「トマト」、「えだまめ」、「きゅうり」、「かぼちゃ」、「ズッキーニ」、「じゃがいも」、「さつまいも」、「たまねぎ」、「アロニア」の10品目を地域振興作物と位置づけ、作付を推進する。

「ねぎ」、「トマト」、「えだまめ」、「きゅうり」、については、収益性が高いことから、生産者の多数を占める小規模経営においても収益を望むことができるのに加え、市内外の需要も多く、作付の拡大を進めることとする。

また、「かぼちゃ」、「ズッキーニ」については、初期投資も少なく省力で栽培が可能なこと、「じゃがいも」、「さつまいも」、「たまねぎ」については、機械化体系が確立しており、土地利用型作物の代替として取り組みやすいことに加え、全国的に需要が見込めること、「アロニア」については、低木であり栽培管理の手間が少なく、加工品としての付加価値が見込めることから、作付の拡大を進める。

それ以外の野菜や花き、果樹、雑穀についても、産地交付金を活用し、農地の有効活用を図り栽培面積を維持する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1672.48	0	1665.03	0	1665.03	0
備蓄米	19.03	0	28.87	0	28.87	0
飼料用米	53.61	0	53.61	0	53.61	0
米粉用米	55.08	0	55.08	0	55.08	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0.00	0
WCS用稲	1.55	0	1.55	0	1.55	0
加工用米	19.81	0	16.75	0	16.75	0
麦	151.06	0	150	0	150.00	0
大豆	138.79	0	130	0	130.00	0
飼料作物	44.14	0	49.6	0	49.60	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0.00	0
そば	4.46	1.94	7.46	2.20	7.46	2.20
なたね	0	0	0	0	0.00	0
地力増進作物	16.19	0	16.34	0	16.34	0
高収益作物	268.07	0.00	268.43	0.00	268.43	0
・野菜	201.77	0	200.53	0	200.53	0
えだまめ	10.03	0	8.25	0	8.25	0
キャベツ	2.67	0	1.10	0	1.10	0
たまねぎ	0.15	0	1.19	0	1.19	0
にんじん	0.69	0	2.10	0	2.10	0
ねぎ	22.32	0	24.70	0	24.70	0
にんにく	0.54	0	0.34	0	0.34	0
ばれいしょ	2.70	0	3.37	0	3.37	0
加工用トマト	0.43	0	0.95	0	0.95	0
きゅうり	7.23	0	8.39	0	8.39	0
トマト	19.61	0	21.22	0	21.22	0
ズッキーニ	5.97	0	4.51	0	4.51	0
さつまいも	2.12	0	1.80	0	1.80	0
かぼちゃ	6.60	0	8.21	0	8.21	0
上記以外の野菜	120.71	0	114.40	0	114.40	0
・花き・花木	15.47	0	16.70	0	16.70	0
・果樹	49.72	0	50.34	0	50.34	0
アロニア	0.34	0	0.52	0	0.52	0
上記以外の果樹	49.38	0	49.82	0	49.82	0
・その他の高収益作物	1.11	0	0.86	0	0.86	0
その他						
畑地化	0	0	1	0	1	0

2,444.27

2,443.72

2,443.72

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	きゅうり・トマト（ミニトマト）・ズッキーニ・さつまいも・かぼちゃ	作付拡大助成（園芸品目）	単年度毎の作付拡大面積	（令和4年度）4.87ha	（令和5年度）3.00ha
2	小麦（基幹作物）	作付拡大助成	単年度毎の作付拡大面積（大豆） 10a当たりの収量（大豆） 単年度毎の作付拡大面積（小麦） 10a当たりの収量（小麦）	（令和4年度）16.39ha （令和4年度）65kg/10a （令和4年度）13.25ha （令和4年度）252kg/10a	（令和5年度）6.5ha （令和5年度）136kg/10a （令和5年度）3.00ha （令和5年度）243kg/10a
3	粗飼料作物等	資源循環型利用助成（耕畜連携）	取組面積 取組割合（取組面積／対象作物作付面積）	（令和4年度）2.46ha （令和4年度）7.16%	（令和5年度）2.65ha （令和5年度）7.57%
4	きゅうり・トマト（ミニトマト）・ズッキーニ・さつまいも・かぼちゃ・アロニア	振興作物等助成（地域振興作物）	対象作物の作付面積合計	（令和4年度）37.65ha	（令和5年度）38.66ha
5	野菜・花き・果樹・その他作物	振興作物等助成（野菜・花き・果樹等）	対象作物の作付面積合計	（令和4年度）56.26ha	（令和5年度）64.00ha
6	麦・大豆・飼料作物・飼料用米・米粉用米・WCS用稲・加工用米	担い手加算助成	取組面積 担い手の対象作物に係る農地集積率	（令和4年度）407.49ha （令和4年度）47.54%	（令和5年度）441.13ha （令和5年度）58.06%
7	そば	二毛作助成	取組面積 二毛作取組割合（そば作付面積（二毛作）／小麦作付面積）	（令和4年度）2.21ha （令和4年度）1.46%	（令和5年度）2.20ha （令和5年度）1.50%
8	そば	そば振興助成	取組面積 排水対策等の取組割合（取組面積／そば作付面積（基幹））	（令和4年度）2.61ha （令和4年度）58.50%	（令和5年度）5.48ha （令和5年度）80.00%
9	飼料用米	飼料用米複数年契約助成	複数年契約取組面積・数量（飼料用米） 作付面積・数量（飼料用米）	（令和4年度）1.96ha/11.4t （令和4年度）53.61ha/306.1t	（令和5年度）0.88ha/5.7t （令和5年度）2.10ha/7.7t
10	きゅうり・トマト（ミニトマト）・ズッキーニ・さつまいも・かぼちゃ	作付拡大助成（主食用米からの転換）	単年度毎の作付拡大面積	（令和4年度）3.1ha	（令和5年度）1.5ha
11	大豆・小麦	作付拡大助成（主食用米からの転換）	単年度毎の作付拡大面積	（令和4年度）29.15ha	（令和5年度）15.00ha
12	飼料用米・WCS用稲	作付拡大助成（主食用米からの転換）	単年度毎の作付拡大面積	（令和4年度）39.14ha	（令和5年度）30.00ha
13	地力増進作物	作付拡大助成（地力増進作物）	単年度毎の作付拡大面積	（令和4年度）2.76ha	（令和5年度）1.00ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:岩手県

協議会名:盛岡市農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	作付拡大助成(園芸品目)	1	15,000	きゅうり・トマト(ミニトマトを含む、加工用トマトを除く)・ズッキーニ・さつまいも・かぼちゃ(基幹作物)	作付面積に応じて助成
2	作付拡大助成(小麦)	1	4,000	小麦(基幹作物)	作付面積に応じて助成
3	資源循環型利用助成(耕畜連携)	3	13,000	別紙3のとおり	取組面積に応じて助成
4	振興作物等助成(地域振興作物)	1	33,000	きゅうり・トマト(ミニトマトを含む、加工用トマトを除く)・ズッキーニ・さつまいも・かぼちゃ・アロニア(基幹作物)	作付面積に応じて助成
5	振興作物等助成(野菜・花き・果樹等)	1	22,000	別紙4のとおり	作付面積に応じて助成
6	担い手加算助成	1	4,000	麦・大豆・飼料作物(飼料作物の範囲は別紙7に定めた作物とする。）・飼料用米・米粉用米・WCS用稲・加工用米(基幹作物)	作付面積に応じて助成
7	二毛作助成	2	12,000	そば(二毛作)	作付面積に応じて助成
8	そば振興助成	1	20,000	そば(基幹作物)	作付面積に応じて助成
9	飼料用米複数年契約助成	1	6,000	飼料用米	取組面積に応じて助成
10	作付拡大助成(主食用米からの転換)	1	5,000	きゅうり・トマト(ミニトマトを含む、加工用トマトを除く)・ズッキーニ・さつまいも・かぼちゃ(基幹作物)	取組面積に応じて助成
11	作付拡大助成(主食用米からの転換)	1	2,000	小麦、大豆	取組面積に応じて助成
12	作付拡大助成(主食用米からの転換)	1	1,000	飼料用米・WCS用稲	取組面積に応じて助成
13	地力増進作物作付助成	1	0~20,000	別紙6のとおり	取組面積に応じて助成

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作物を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作物を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(別紙3) 粗飼料作物等の範囲

青刈りとうもろこし
青刈りソルガム
スーダングラス
青刈り麦(らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。)
青刈り大豆
子実用えん麦
青刈り稲
WCS用稲
オーチャードグラス
チモシー
イタリアンライグラス
ペレニアルライグラス
ハイブリットライグラス
スムーズブロムグラス
トールフェスク
メドーフェスク
フェストロリウム
ケンタッキーブルーグラス
リードカナリーグラス
バヒアグラス
ギニアグラス
カラードギニアグラス
アルファルファ
オオクサキビ
アカクローバ
シロクローバ
アルサイククローバ
ガレガ
ローズグラス
パラグラス
パンゴラグラス
ネピアグラス
セタリア
飼料用米

(注) 上記の粗飼料作物等については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、山羊に供される場合に限ります。

別紙4

助成対象作物一覧(振興作物)

区分	作物名	単価	区分	作物名	単価	
野菜	さやえんどう	22,000	野菜	コモチカンラン	22000	
	ブロッコリー	22,000		夕顔	22000	
	アスパラガス	22,000		ささげ	22000	
	さといも	22,000		あさつき	22000	
	だいこん	22,000		たらの芽	22000	
	スイートコーン	22,000		わらび	22000	
	いちご	22,000		うど	22,000	
	レタス	22,000		うるい	22,000	
	はくさい	22,000		しどけ	22,000	
	ほうれんそう	22,000		ぎょうじゃにんにく	22,000	
	すいか	22,000		まこもだけ	22,000	
	メロン	22,000		えごま	22,000	
	れんこん	22,000		そらまめ	22,000	
	しょうが	22,000		ゴーヤ	22,000	
	さやいんげん	22,000		パクチー	22,000	
	ピーマン	22,000		非食用かぼちゃ	22,000	
	なす	22,000		花き	りんどう	22,000
	うり(まくわうり、しろうり)	22,000			小ぎく	22,000
	とうがらし	22,000	ゆり		22,000	
	オクラ	22,000	カーネーション		22,000	
	セルリー	22,000	ばら		22,000	
	カリフラワー	22,000	洋ラン		22,000	
	つけな類(こまつ菜、みず菜)	22,000	ガーベラ		22,000	
	しゅんぎく	22,000	トルコキキョウ		22,000	
	みつば	22,000	スターチス		22,000	
	せり	22,000	ハス		22,000	
	パセリ	22,000	ダリア		22,000	
	しそ	22,000	アスター		22,000	
	にら	22,000	ケイトウ		22,000	
	らっきょう	22,000	種苗類(助成対象花きの種苗に限る)		22,000	
	みょうが	22,000	ソラナム	22,000		
	菜	食用菊	22,000	果樹	ブルーベリー	22,000
		かぶ(小かぶ含む)	22,000		りんご	22,000
		くわい	22,000		ぶどう	22,000
		わさび	22,000		おうとう	22,000
		やまいも	22,000		キウイフルーツ	22,000
		ごぼう	22,000		日本なし	22,000
		モロヘイヤ	22,000		西洋なし	22,000
		ヤーコン	22,000		もも	22,000
		なんばん	22,000		うめ	22,000
ふき		22,000	かき		22,000	
キヌサヤ		22,000	くり		22,000	
小松菜		22,000	くるみ		22,000	
ながいも		22,000	いちじく		22,000	
トウガン		22,000	ラズベリー		22,000	
クレソン		22,000	その他作物		小豆	22,000

別紙6

助成対象作物一覧

区分	作物名	単価
地力増進作物	ソルガム	0~20,000
	スーダングラス	0~20,000
	イタリアンライグラス	0~20,000
	ライ麦	0~20,000
	エン麦	0~20,000
	アカクローバ	0~20,000
	シロクローバ	0~20,000
	アルサイククローバ	0~20,000
	クリムソンクローバ	0~20,000
	オーチャードグラス	0~20,000
	レンゲ	0~20,000

(別紙7) 担い手加算助成対象の飼料作物の範囲

青刈りとうもろこし
青刈りソルガム
スーダングラス
青刈り麦(らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。)
青刈り大豆
子実用えん麦
青刈り稲
オーチャードグラス
チモシー
イタリアンライグラス
ペレニアルライグラス
ハイブリットライグラス
スムーズブロムグラス
トールフェスク
メドーフェスク
フェストロリウム
ケンタッキーブルーグラス
リードカナリーグラス
バヒアグラス
ギニアグラス
カラードギニアグラス
アルファルファ
オオクサキビ
アカクローバ
シロクローバ
アルサイククローバ
ガレガ
ローズグラス
パラグラス
パンゴラグラス
ネピアグラス
セタリア

(注) 上記の飼料作物については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、山羊に供される場合に限ります。